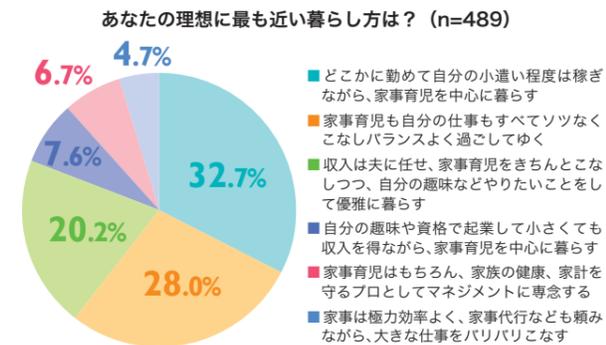
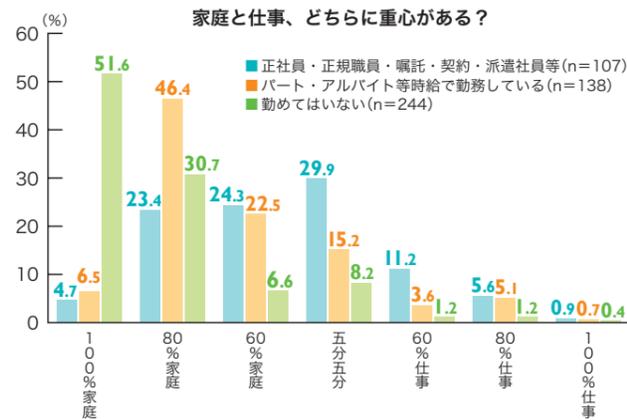


# 「家庭志向」主婦が、幸せを実感

少子化対策の一環で政府は「女性の社会進出」を重要課題として様々な施策を打っている。が、手本としたアメリカで高学歴・ハイキャリア女性による主婦回帰の流れを紹介した書籍「ハウスイフ2.0」が大きな注目を集めている。日本でも働く女性の間で話題になり、会社に使われず、家庭を軸に丁寧に暮らすことを目指す姿に共感する女性も数多い。インターネットが普及したことで、以前は社会とつながりを持ちにくかった専業主婦でも、ブログで料理のワザを発信するなど、特技を生かして活躍する人が出てきた。従来の主婦像とは違う「家庭志向」主婦のニーズを探ってみた。

## 8割弱の主婦が、家庭志向 ただし家事への義務感強い

仕事と家庭のバランスをどう考えているのか、全国の50代以下の既婚女性489人の回答を集計。現在の働き方は、正社員・契約社員など企業に勤めている人が約2割、パート・アルバイト等時給で働く人が3割弱。企業に勤めていない人が約半数いて、その大半が専業主婦だ。全員に、仕事と家庭のどちらに重心があるかを聞くと、「家庭の比重が60%以上」の人が約77.1%と家庭志向が強い結果に。職の有無で程度に差はあるものの、企業に勤める人でも過半数は、家庭の比重が高い。理想の暮らし方についての質問でも、家庭を大切にしたいワークライフバランスを求める気持ちが見える。しかし、必ずしも家事が楽しいわけではないようだ。家事を義務と思う気持ちが強い人が半数強で、家庭志向＝家事好きではないことに注意したい。



## 内なる価値観による消費の時代へ

～自分・家族との時空間を楽しむ～

1990年代後半のバブル崩壊に始まり、その後約15年にも及ぶ日本経済の長期低迷により、日本の社会システムと人心は一変した。一世帯あたりの平均所得金額は1994年の664.2万円を最高に2011年まで減少の一途をたどり、昨年11月に発表された2014年7～9月期の実質GDPも前期比1.6%減と、期待された景気回復も消費増税の影響を受け、なかなか厳しい状況にある。また、今後も少子高齢化の進展により、年金受給の面でも現役世代は大きな不安を抱えており、消費者の財布の紐が緩くなる要素は現在どこにもない。

そうした中で、流行のサイクルが短い衣料品に高額消費することは難しいし、ファッションのカジュアル化の進展やファストファッションの浸透により、現在ではファッションによって個性や自分の生き方を表現することは難しくなっている。

そこで、生活雑貨、食品など自分の身の回り品で自分の



学校法人 文化学園 文化ファッション大学院大学  
ファッションビジネス研究科 講師  
内海里香さん

一橋大学大学院商学研究科修士課程修了。1997年に設立した「オフィス aoyR's」で消費財メーカー・小売企業を対象にマーケティング・コンサルティングを展開。著書は「全国百貨店の店舗戦略2011」(同友館)など。2015年2月刊行予定の「日本型経営戦略」(須田敏子編)では、ファッション専門店業界を担当

生き方や個性・こだわりを示すもの、自分の・あるいは家族と過ごす時間・空間を心地よいものにする消費(内向き消費)に志向が向いているのである。こうした消費者の意識変化を受けて、ファッション専門店企業もおしゃれな生活雑貨・飲食業態を積極的に開発している。

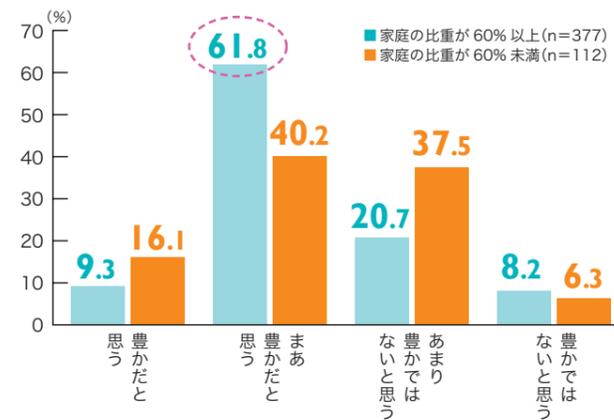
日本の消費者が、モノの価値について相対的な基準ではなく、各人の絶対的な価値観・基準で判断、消費する時代になって来たとも言えるだろう。

## ニーズは“時間をつくる” “暮らしの質を高める”

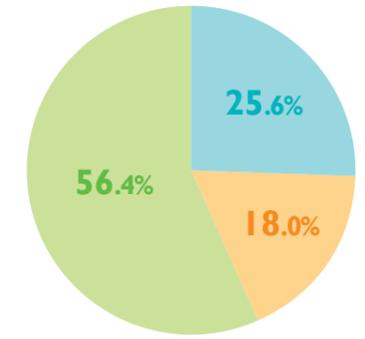
現在の暮らしの精神的な豊かさについて、家庭の比重が60%以上の人のほうが、豊かだと思う割合が71.1%と多い。そうした「家庭志向」派の最近の動向を確認すると、季節の行事やイベントを家族と楽しんだり、基本の食品は多少高くても美味しいものを選んだりする率が高め。

一方で、自分の服は最近買っていないとする人が4割で、家族との時間や基本の食に価値観があると言える。精神的に豊かに暮らすために気を付けていることの回答も、大半が家族の健康を保ち、コミュニケーションを楽しむための食や、快適な暮らしを演出する生活雑貨などに言及。身の回りを心地よくして、地に足の着いた幸せを実感できることに価値観がある。家族と楽しむ時間、自分も楽しむ時間を生み出すために、外食や便利家電を利用する。「家庭志向」主婦のニーズが、現代の気分をリードしている。

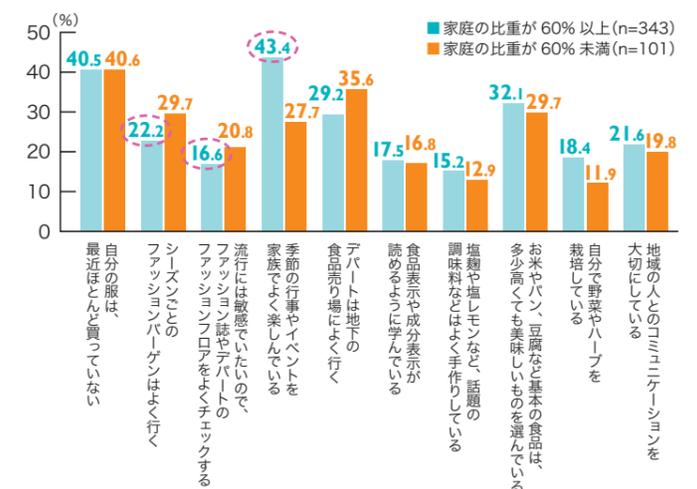
現在の暮らしは、精神的に豊かだと思う? (単一回答)



家事を義務と思う気持ちと、楽しみと思う気持ちはどちらが強い? (n=489)



最近の動向に当てはまること (複数回答)



【調査概要】

調査期間 2014年10月9日～10月14日  
調査方法 リビングWebでの調査  
有効回答 全国既婚女性(50代以下)

※各データは小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならないことがある

## 精神的に豊かな暮らしをするために、 気を付けていること

- ・物欲を解消し豊かにするのではなく、小さなことで気持ちにゆとりを持って豊かにしよう心掛けている。**ルームフレグランスで香りを楽しんだり、柔軟剤数種類の中からその日の気分を選んで。お花を飾ってみたり。時々半日かけて凝った料理をしてみたり...**(36歳/パート・アルバイト)
- ・「まあいっか」の精神を持つ、**たまにはお金がかかっても楽をする**(外食、市販品を使う)。(27歳/専業主婦)
- ・家族の**健康を考え極力手料理**を心掛けているが、週末は3食作っていたら家事で一日が終わってしまうので、**外食を取り入れ**家事の時間を減らし**家族で楽しむ時間**を作っている。(35歳/正社員)
- ・**子どもも楽しめて、自分も楽しいと思えること**をする。例えば、時間があれば、お弁当を持って公園に行く。(43歳/専業主婦)
- ・機械なり施設なり頼れるものは頼り、**自分にしかできな**

- い仕事や育児をバランスよく**することが精神的に豊かになるベースかと思えます。これがあってはじめて暮らしの質をあげることに精が出せる気がしています。(35歳/嘱託・契約等)
- ・金銭的なことではなく、**気持ちが豊かになるように、部屋の掃除を主婦としても手を抜くことなくきれいに**していきたいと思っています。また**家庭菜園**をすることで**子どもへの食育**にもなり、**食卓も豊か**になるように努めています。**衣食住が整うと家の中にいい空気が**充滿し、気持ちが自然に潤うような気がします。(43歳/専業主婦)
- ・自分をはじめ**家族全員が現在健康**なので、このまま続くよう栄養面、衛生面で気をつけている。(49歳/専業主婦)
- ・家族が、いつも**健康で穏やかな気持ち**でいられるよう、**おいしい食事**を作り、**家庭内をいつも温かな雰囲気**にするよう、心がけている。(57歳/専業主婦)